

2021 WUSV世界選手権 レポート

2021.11.09 益田晴夫

出国準備編

京都でのコロナワクチン接種は、私の対象年齢の開始が一回目が9月中、二回目が10月中という告知だったので「あー、今年もWUSV世界選手権（ヨーロッパ）に行けないなあ」と思っていたのですが、一回目の接種が8月26日にできるということで「行く！」と決断して、出発のための準備を大慌てで始めました。

いつも利用しているフライト（関空→アムステルダム）がコロナの影響で飛行機が小型機となっており、犬を搭載することができず、やむを得ず成田発の飛行機を予約しました。

10月16日10:20の出発に間に合うように京都を前日の19:00に自家用車で出発。



だーれもない成田空港



400席のジャンボに9名だけの乗客



アムステルダムに無事到着。飛行機を降りてすぐにアルバイトのお兄ちゃんが、コロナワクチン接種証明書を確認するだけで、オランダ入国はいつもどおりいたってスムーズでした。ベルギーでの10日間の合宿を経て、いざ開催地スペインに向けて車で1400km移動しました。

WUSV世界選手権編

ここからは、今後注意しなければならないことや審査の気になった点をレポートします。



昨年2020年はコロナの影響でWUSV世界選手権は不開催でした。今年は2021年11月1日～11月7日にスペイン北部のLermaという小都市で開催されました。コロナの影響で観衆は少ないだろうと思っていたのですが、意外や意外、近年のWUSV世界選手権の三本の指に入るほどの観衆でした。

トリビア、ふむふむ、参考編



受付後の「テーブルジャンプテストとマイクロチップ確認と獣医による診断」は、WUSV世界選手権の審査委員長立ち会いのもとで行われます。2019年まではテーブル（診察台）に登るためにボールやエサを使用してもOKでしたが、今年からはボールやエサの使用は禁止となりました。あくまでも命令だけで犬はテーブルに登らなければなりません。もし、登れない場合は失格となり競技に出場できません。

目録も時間割も貼り出し成績表もない

2020年2月にアメリカのロサンゼルスで審査をしたときもそうでしたが、各国チームごとに配付された以外に、**目録はありませんでした。出場時間割も貼り出し成績表もありませんでした。**出場者も観衆も各自がスマホで確認するのです。日本はペーパーレス化、デジタル化がずいぶん遅れていると思いました。**日本は申込みも「現金書留で申込書と出場料を送る」って、昭和か！とツッコミたくなります。**

公開練習

公開練習においては、リードとチェーン首輪以外、特殊な装備（追加の長いリード、追加の首輪、棒類、テントを小回りにさせるための装置等々）の使用は一切禁止です。

前進のための装置（ボールを吊す棒等々）はOKでした。

追求



少しかがんだ姿勢で犬に「サガセ」の命令を与えること（物品発見後の再出発でも）が減点対象となりましたが、**それは間違いです**。なぜその審査員のミスが発生したかということ、IGP規定書の原版ドイツ語には出発の際の指導手の姿勢に関して記載されていませんが、英語翻訳版には「追求スタートの際（物品発見後の再スタートでも）には指導手は真っ直ぐに起立の姿勢で犬に命令を与えなければならない」と記載されているからです。今年の追求の審査員はイギリス人なので英語バージョンの誤った規定で審査したのです。（このことはFCIユーテリティ委員会のフランス・ヤンセン会長に報告したところ、直ちに対応するとのことでした）

マイクロチップのチェックは追求終了後に審査員によって行われます。

服従

今年の審査員はアメリカ人でした。彼は基本姿勢における指導手の左手の位置は犬の顔の外側にあっても特に問題ないとチームキャプテンミーティングの際に説明しましたが、**これも間違いです**。「基本姿勢において指導手の左手は体に密着していなければならない」です。

マイクロチップのチェックは服従終了後に競技場内でアシスタントによって行われます。

防衛

2021WUSV世界選手権の防衛で特に印象に残ったこと（各国の公開練習を見学していて。そしてそれが本番に反映されているなあと感じたこと）。

「6番テントにいるヘルパーに対する禁足咆哮」は、ほとんどの犬が片袖に対してではなくヘルパーに対して咆哮していたことが、とても印象的でした。

練習で「吠えたら片袖を咬ませて、片袖をあげちゃってください」は古い昭和のスタイルです。

「犬は片袖を無視してヘルパーに対して禁足咆哮する」ことが大事です。そのためには咆哮した犬に対して片袖を咬ませるのではなく、右手でご褒美（ボールやパットなど）を与えることが大事です。これが現在の禁足咆哮の主流です。

マイクロチップのチェックは防衛終了後に競技場内でアシスタントによって行われます。



帰国準備編



スペインでの世界選手権終了後、月曜日に道中でパリのエッフェル塔を高速道路から眺めながらフランスを縦断してベースキャンプ地のベルギーに帰還。日本帰国に必要なPCR検査の予約をインターネットでして、水曜日に国境を越えてオランダに行って参りました（といっ

ても車で40分くらい)。途中、2017年WU S V世界選手権のティルブルクのスタジアムの真横を歩いて懐かしく思いました。PCR検査の結果は翌日にメールが届きます。陰性であれば日本に帰ることができますが、陽性の場合は「飛行機に乗ることができません」。

以上、これから世界を目指す方の参考となれば幸いに存じます。

最後まで読んでいただきありがとうございます。

ご質問があればなんでもお答えいたします。下記のQRコードからLINEを送信していただくか、SVJにメールを送信してください。

